

富津市社会教育委員会議録

1 会議の名称	令和4年度第1回富津市社会教育委員会議
2 開催日時	令和4年6月24日(金) 午後2時00分～午後3時30分
3 開催場所	富津市役所502会議室
4 審議等事項	(1) 令和3年度富津市社会教育事業報告について (2) 令和4年度富津市社会教育事業計画について (3) その他
5 出席者名	(社会教育委員) 細谷憲一郎、嶋野利郎、野尻剛史、大野泰代、高橋栄二、 杉田玲子、森千枝子、石井喜美子、佐藤泰代 (事務局) 岡根教育長、平野教育部長、平野公民館長、 樋口生涯学習課長、伊藤生涯学習課長補佐、前田社会 教育主事、杉本主任司書
6 公開又は 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の 理由	
8 傍聴人数	0人(定員5人)
9 所管課	教育部生涯学習課社会教育係 電話：80-1345
10 会議録 (発言の内容)	別紙のとおり

第1回 富津市社会教育委員会議会議録

発言者	発言内容
樋口課長	<p>それでは定刻前ではありますが、お揃いになられているようなので始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しい中ご出席いただき、誠にありがとうございます。進行を務めます、生涯学習課長の樋口です。よろしくお願ひいたします。</p> <p>開会に先立ちまして、今年度新たに社会教育委員になられた方々に、委嘱状を交付させていただきます。</p> <p>お名前をお呼びしますので、その場でご起立をお願いいたします。岡根教育長と平野教育部長が皆様の前に回ってまいりますので、お一人ずつお受け取りいただきたいと思ひます。</p>
岡根教育長	<p>(委嘱状交付)</p>
樋口課長	<p>それでは、新年度最初の会議となりますので、委員の皆様のご自己紹介をお願いいたします。</p> <p>名簿順に細谷委員からお願いいたします。</p>
各委員	<p>(自己紹介)</p>
樋口課長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、事務局職員のご自己紹介を行います。教育長からお願いいたします。</p>
事務局職員	<p>(自己紹介)</p>

樋口課長	<p>ここで、会議の公開についてご説明いたします。</p> <p>本会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項の規定により公開となります。このため、後ほど会議録署名人 2 名を決めていただきたいと思います。また、会議録作成のため録音をさせていただきますので、ご了承願います。</p> <p>会議に先立ち、出欠席のご報告をさせていただきます。本日の出席委員は 9 名、欠席委員は 4 名でございます。従いまして、過半数の出席がございますので、社会教育委員会会議運営規則第 3 条第 5 項の規定により、会議は成立いたします。</p> <p>それでは、ただ今から令和 4 年度第 1 回富津市社会教育委員会会議を始めさせていただきます。</p> <p>はじめに、高橋委員長からご挨拶をお願いいたします。</p>
高橋委員長	<p>昨年はいろいろありまして、生涯学習バスのラッピングの絵画の審査や、教育長から諮問をいただいて、富津市立図書館整備基本計画の策定のために、定例会の他に臨時会を 2 回行い、おかげさまで教育長に答申させていただいて、今は図書館の準備が進んでいるところと聞いております。</p> <p>2 つ目は、コロナが少し収まってきたため、県の社会教育委員会会議の話では、今年の大会は昨年よりも規模を大きくしてやりたいとのことです。また、君津地方社会教育委員連絡協議会の大会も 2 年間やっていませんが、これも開催の方向に向けて進めたいと考えております。今年度もいろいろ進めていきたいので、皆様のご協力をよろしくをお願いいたします。</p>
樋口課長	<p>ありがとうございました。続きまして、岡根教育長からご挨拶を申し上げます。</p>
岡根教育長	<p>本日はご多用の中、社会教育委員会会議にご出席いただきありがとうございます。現在進めております富津市立図書館です</p>

が、順調に進んでいるとの報告を受けております。小さくても小回りの利く、市民に愛着を持っていただき、活用される図書館であることが大切だと思っております。その点からも、委員の皆様には、いかに市民に活用していただけるかについてのお知恵をいただければと思っております。

また、社会教育の観点からも、どのような学習の機会が必要かについてもご助言をいただければ幸いです。例えば、18歳の成人といわれて選挙権等もあるわけですが、政治に対する視野を広げる学習の機会など、少年期、青年期、壮年期、老年期のそれぞれの社会教育のあり方についても、皆様の視点からご助言をいただければと思っています。

今回の会議は、昨年度の事業報告と今年度の事業計画が中心ですが、常に市民の社会教育環境をどうつくっていくか、また、その成果をどう評価していくかというマネジメントを図っていきたいと思っていますので、ご意見、ご指導をいただければと思っております。よろしく申し上げます。

樋口課長

ありがとうございました。

これより議事の進行につきましては、富津市社会教育委員会議運営規則第3条第4項の規定により、高橋委員長に進めていただきます。まず会議録署名人2名を決めていただきたいと思います。

それでは、高橋委員長お願いいたします。

高橋委員長

それでは議題に入る前に、会議録署名人の指名についてですが、慣例により私から指名することよろしいでしょうか、

各委員

(「異議なし」との声あり)

高橋委員長

では、細谷委員と嶋野委員でよろしいでしょうか。

各委員	<p>(「異議なし」との声あり)</p>
高橋委員長	<p>ご異議もないようですので、会議録署名人は、細谷委員と嶋野委員に決定いたします。</p> <p>それでは、「議題(1)令和3年度富津市生涯学習関係事業について」を議題といたします。</p> <p>事務局より、説明を求めます。</p>
伊藤課長補佐	<p>それでは、ご説明申し上げます。</p> <p>まず、資料に添付してあります職員配置表をご覧くださいまして、教育委員会とはこういうものであると改めてご確認いただきたいと思えます。</p> <p>狭い意味での教育委員会といいますと、教育長を含む合計5名の教育委員の方々であります。市長が教育のことを知らないというのはいかがなものかということで、市長を交えた総合教育会議というものがございます。</p> <p>それから、下にございますのが事務局で、そのトップが教育部長となっております。我々は生涯学習課と公民館ということで、下の方に配置されておりますが、これだけの人数でやっております。</p> <p>それでは、「令和3年度富津市生涯学習関係事業報告」をご覧ください。例年ですと、教育委員会の点検・評価という資料を活用して報告していましたが、今回はまだ定まっておりませんので参考資料として添付しております。本日は、この「富津市生涯学習関係事業報告」という資料で説明させていただきます。</p> <p>まず、教育施策にのっとなって、私たちは事業を進めております。2020年までの教育施策は、章立てがなく、「第1部学校教育の充実」、「第2部生涯学習の充実」、それに続いて「第3部青少</p>

年健全育成」、「第4部スポーツ・レクリエーション」、「第5部文化芸術」、「第6部文化財の保存・活用」というように、学校教育以外のボリュームが多かったので、2021年からは見直しまして、学校教育と生涯学習の両輪で進んでいくということになっています。

その中でまず、「1学び、活かす 生涯学習の推進」ということで、この社会教育委員会議で初の諮問を受けまして、富津市立図書館整備基本計画を皆さんに検討していただきました。

最初から傍聴人が多い中、会議を4回行い、2月に答申、そして教育委員会で策定となっております。

それから、(3)の一番下に書いてあります、平成29年から1台体制になってしまった生涯学習バスですが、市制施行50周年記念事業として、新しくバスを購入し、5年ぶりに2台体制となりました。

新しいバスのラッピングについては、委員の皆様にも審査員になっていただきました。どうもありがとうございました。10名の児童の作品が選ばれましたが、応募総数が263名ということで、どの絵も素晴らしかったと思います。

新しいバスの大きさは、従来のバスと全く同じですが、44人乗りから28人乗りと、かなりスペースが広くなり、大人の方もゆったりと乗っていただけたと思います。ご活用をお願いいたします。

資料の裏面にいきまして、「2家庭教育への支援と連携・協働の推進」ということで、平成30年あたりから、中央公民館で放課後ルームを試験的に始めました。これを家庭教育支援事業の補助金をもって、指導員と支援員を置いて、それぞれ学校を増やしました。

細谷先生のいらっしゃる環小学校も、学校のご協力のもと、登録者数も20数人おり、活況を呈しております。

全体では、令和2年度は42人で、これでも多かったのです

が、昨年度は3校合わせて75人の登録がありました。昨年はキャパシティを少し超えておりまして、今年は若干制限を設けております。今年の登録者数は、合計で60名程度となっております。

現在は、密にならないようにしており、家庭教育指導員と社会教育指導員でまかないきれぬ人数が3校なのですが、将来的には、放課後子供教室、学童クラブを、全学校で設置することになっております。それから、放課後ルームと学童クラブの一体型、連携型ということも視野に入れて進めることになっております。

私たちとしては、指導員、支援員の先生方以外に、地元のボランティアの方々の居場所としてそこを使っただきながら、子どもたちの居場所を確保して、学校の支援に繋げていくという循環ができればと考えております。

その学校の支援ということですが、「(2) 地域学校協働活動の推進」がございます。地域学校協働本部というものが、各自治体で必置になっております。当市は、各学校の単体を作ることとはこれからやっていかなければならないのですが、上記の放課後ルームや、中学3年生の塾に行っていない子どもたちの支援をやっておりますので、市域全体の協働本部があるということになっています。これからは、各単体の学校や地域の本部の設置が求められていきます。

先ほどの放課後ルームの大貫小についてですが、昨年までは中央公民館の一室を借りて活動し、月末あたりに試験的に大貫小学校で活動していましたが、本年度からは、大貫小の空き教室と体育館を活用して、活動しております。

もともと、富津小、環小は学校で活動しているのですが、これで3校とも学校を中心に活動することとなりました。

大貫小は空き教室を提供していただくということで、そこに地元の方などに積極的に入っていただきます。現状では、杉田

委員は、以前から読み聞かせの会を学校でやっておられます。また、大野委員も長年太鼓の先生をされており、その活動をしている離れの校舎の一室を借りて、地域の方が活動する場を確保したということです。本年度から来年にかけて、単一校の本部に成長していればいいのではないかと考えています。ご協力をお願いいたします。

「3郷土愛を育み多様な文化にふれ親しむ環境づくり」の「(1)文化財の保存・活用」ですが、これは令和3年度の計画を元に報告を作成したわけですが、重要なことが抜けております。2番目あたりに、「内裏塚古墳群、鋸山」とあります。

鋸山は、皆さんご存じのことと思いますが、日本遺産の候補地域になりました。この前の年度に、日本遺産の申請をしましたが、残念ながら最後の選考に漏れてしまいました。

それから急遽、候補地域の選考が始まったので、申請したところ、北海道の小樽市、京都市と並んで候補地域となりました。3か年の国の補助金を受けまして、事業を行い、基盤を固めて、4年後に日本遺産の一群に入れるようにしたいと考えております。

今年度は2年目に入りますが、良い事業ができているのではないかと考えています。候補地域にはなっているのですが、それを知らない市民の方もまだ多くいらっしゃるのでは、これから広報活動に務めていきたいと考えています。

当市の生涯学習部門としては、他に文化芸術やスポーツ・レクリエーションがあります。令和3年度までは、コロナ禍のため数々の事業が中止になっていましたが、今年度は再開されます。令和3年度の事業報告として、駆け足ではありますが、以上で終わりたいと思います。

高橋委員長

事務局の説明が終わりました。委員の皆さんから、ご質問等はございますか。

	<p>私から一つ聞いてもいいでしょうか。日本遺産候補地域に鋸山が選ばれたことは聞いていますが、昨年度はどんな事業をされたのですか。</p> <p>私からご説明申し上げます。日本遺産候補地域については、去年の7月に文化庁の認定を受けました。それをもちまして、9月頃から、昨年度、今年度、来年度と3か年で事業をしていくという形になります。</p> <p>昨年はまず、地域の方々に考えていただく取組として、ワークショップを行いました。</p> <p>また、現地でニーズ調査ということで、実際に来ている方が、何回目来ているか、どこから来ているか、どういうところに興味があるかなどを調査しました。</p> <p>他にも、鋸山では迷子や事故も起きていますので、危険個所を確認するため、また、新たな遺構などを見つけるため、航空測量も行いました。</p> <p>そして、鋸山を象徴するシンボルマークを作成する取組も行いました。</p> <p>こういった、いくつかの取組を合算して、地域活性化につなげていきたいと考えております。去年は、その足固めの年でした。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございました。先ほどの説明にあったように、市民がどれだけこのことを知っているのか、広報活動が大事ですね。</p>
樋口課長	<p>そうですね。また、今年度、確定ではないのですが、東京湾フェリーさんにご協力いただいて、船上から鋸山を見ていただいて説明をしたり、シンポジウムを開催したりという形で、ホームページなどを活用しながら広報活動を続けていきたいと考</p>

	<p>えています。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>ありがとうございました。素朴な質問でもいいので、他に何かありますか。</p> <p>野尻委員、どうぞ。</p>
	<p>野尻委員</p> <p>放課後ルームについて、教えていただきたいのですが、各ルームの対象となる児童は、その学校に通っている児童なのでしょうか。</p> <p>また、今後放課後ルームを開設する学校を増やしていく予定について、細かいところがわかっているならば、教えていただきたいと思います。</p>
<p>伊藤課長補佐</p>	<p>現状は3校ですが、対象はそれぞれの学校に通う児童で、登録をして、参加してもらっています。どの児童が来てもいい状態が望ましいのですが、けがや登下校の問題もありますので、登録者のみの参加とさせていただき、保険にも加入してもらっています。そのためにも、登録制とさせていただいています。</p> <p>また、これから増設する予定なのですが、当面は4か所を目標としております。というのは、先ほど申しましたとおり、職員で対応できるのが3校であり、それぞれが地域の方のご協力を得られれば、あと1校くらいは増やすことができるのではないかとということで決めた数字です。候補としては、天羽小学校で行うことを計画しておりました。</p>
<p>高橋委員長</p>	<p>他にありますか。</p>
<p>細谷委員</p>	<p>関連して、環小学校の放課後ルームの現状をお話いたします。現在、放課後ルームが週に1回あり、本校の53人の児童のうち、約半分の25、6人が登録をしております。送り迎えは保</p>

	<p>護者が行うということなので、ハードルが高いかと思っていましたが、保護者の協力をいただきながら、多くの子どもたちが登録して活動しています。</p> <p>子どもたちは、とても楽しみにしており、指導員の方たちも4、5人来ていただいているので、宿題をやりたい子、外で遊びたい子、体育館で遊びたい子などに分かれて、好きなものを好きなペースでできるというのが、子どもたちのニーズと合っているようです。</p> <p>指導員の方も、地域をよく知っている方がいるので、時間があると地域を散策していただくこともあり、とても子どもたちに好評です。学校としても、回数を週1回ではなく、増やしてもらいたいと思っていたところです。</p>
高橋委員長	他に何かありますか。
各委員	(「なし」との声あり)
高橋委員長	ないようですので、議題(1)令和3年度富津市生涯学習関係事業について、ご承認いただける方は挙手願います。
各委員	(全員が挙手)
高橋委員長	<p>全員が賛成ということで、「議題(1)令和3年度富津市生涯学習関係事業について」は承認されました。</p> <p>次に、「議題(2)令和4年度富津市生涯学習関係事業について」を議題といたします。事務局より説明を求めます。</p>
伊藤課長補佐	<p>それでは、「令和4年度富津市生涯学習関係事業計画(案)」をご覧ください。先ほどの事業報告と違っている点は、右上の「富津市みらい構想」の(仮称)が取れております。3年度末</p>

にこの構想が出たわけですが、「みらい構想」自体の位置づけも、「富津市人口ビジョン 2040」の人口の減少を抑制するということと、そのための総合戦略と並行して、富津市の総合的な計画として位置づけられています。

内容については、「誇りと愛着を持てるまち ふつつ」を元にそれぞれの目標が決められています。

それから、個別計画として、それぞれの部署において計画が立てられ、そのうちの一つとして、「富津市教育施策」が挙げられています。

学校教育と生涯学習という両輪でやっていくものなのですが、文部科学省や県の方針として、「社会に開かれた教育課程」ということで、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動本部といったもので、地域に開かれた学校運営を行うとともに、地域全体で学校教育を盛り立てていきます。

それから、もう一つ、「学校を核とした地域づくり」ということが掲げられております。一昔前までは、公民館を中心とした地域づくりや街づくりといったことが行われておりまして、地域交流センターなどはそういった流れでつくられたものです。自治体によっては、街づくり部門が公民館を統括している例もあります。

現状に照らしまして、子どもたちを地域で育てていくという方が、地域づくりに結び付くのではないかといった方向転換がされており、「家庭・地域教育力の向上」というテーマを元に、学校を核として地域づくりをしていこうという方向になっています。

それを具体化するため、資料裏面の「2 家庭教育への支援と連携・協働の推進」ということで、家庭教育支援や地域学校協働活動の推進を中心に行っていきます。

また、「3 郷土愛を育み多様な文化にふれ親しむ環境づくり」で、鋸山日本遺産「候補地域」という項目がありますが、地域

の誇るべき文化財や共同体を育みながら、郷土に誇りを持ち、新たな魅力を創造していただければと考えております。

今は学校を核として、居場所を持ちつつ、地域づくりに主体的に関わっていくような市民を増やし、私たちがいかにそのようになっていくかということが重要であると思います。本年度もそのような方向で、事業を模索してやっていきたいと考えています。

冒頭の教育長の挨拶でもありましたように、市長からのリクエストでもありまして、私たちがどのようにすれば各世代の方々を惹きつけるような事業を行えるのか、皆様方のご意見を伺いたいということで、アンケート用紙をつけてあります。

アンケートの2番目がその内容です。資料の「第2章 生涯学習の充実」で、「富津で学び、富津で活かせる、学習機会の促進」とまとめられておりますが、各世代で、どのようにして学習機会を作っていけばよいのかを皆様方に伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

アンケートの1番目ですが、図書館について、皆様方に立案していただいた基本計画を元に着々と進めてまいりますが、開館した後、どのようにすれば利用者が増えるのかということについて、ご意見をお聞かせ願いたいと思います。

高橋委員長

事務局からの説明は終わりました。委員の皆さんから、ご質問等はございますか。

石井委員

事業計画（案）の中で、「学校を核とした地域づくり」という点で、賛成の立場で考えを話させていただきたいと思います。

富津市は小学校の統合がかなり進んでおり、例えば天羽小学校は、金谷から天神山までの地区を含んでおり、広範囲から子どもたちが通ってきています。その点で、先ほども話があったように、放課後ルームの4校目を天羽小学校につくるのは、と

てもいいのではないかなと思いました。ぜひ、実現していただきたいと思えます。

それから、質問なのですが、資料の裏面の「(3) 青少年健全育成の推進」で、「青少年健全育成団体への支援と連携」の中で、令和3年度の事業報告ではPTAが入っていたのですが、令和4年度の事業計画ではPTAが入っていません。

今日、実は吉野小学校は資源回収が最終日で、今までとスタイルが変わっていました。今まではPTAの理事さんたちが各家庭を回っていましたが、コロナの影響もあると思えますが、数年前から、学校だよりで資源回収の日程をお知らせして、学校まで運んできてもらうという形に変わりました。

私が現職の頃は、まだ人数も多く、PTAの組織がしっかりしていて、PTAの方々のご協力がとてもありがたかったことを覚えています。

ところが、コロナの関係もあってか、資源回収のスタイル1つにしてみても、PTAが関わっていないようなので、一体PTAの活動はどうなっているのだろうかと思い、質問します。

これは、PTA活動そのものの衰退なのか、それとも、こういった状況なので、コロナを機会にピンチをチャンスに変えて、いろいろなもの見直しを図っていこうとしているのか。その見直しの1つとして、PTA活動は少し置いておいて、地域でできることは地域で何とかしていこうということに変わりつつあるのか。そういった点で、PTAの活動はどうなっているのかということをお伺いしたいと思えます。

地域で子どもを育てるといのは、とても大事なことですし、そこにPTAはどのように関わるのか、親御さんとしてはPTAをもっと地域にPRしてもいいのではないかなと思えました。

もし、現状はどうなっているか、わかれば教えていただきたいと思えます。

伊藤課長補佐	<p>まず、青少年健全育成団体から PTA の文字がなくなったということについてですが、PTA というのは、親御さんと教職員との共同の組織です。資料表面の社会教育関係団体に PTA がありまして、そちらの意味合いの方が強いので、統合させていただきました。</p> <p>それから、私自身が地域的に知っていることとして、お話します。おそらく石井委員と同じ小学校区だと思うのですが、あの小学校では、数年前に当時の会長さんが PTA の組織を持たないような方向づけを行ったと聞いています。石井委員のおっしゃるように、PTA の衰退ということもあるかもしれませんが、みんなでやるというスタイルになったのだと思います。コロナ禍となり、回収ではなく、一週間くらいの期間、別棟に地域の方が持ち寄る。その期間外でも、学校に連絡すれば持つていくことが出来るという形をとっています。</p>
杉田委員	<p>私は大貫に住んでいるので、大貫小学校のことが耳に入ってくることが多いのですが、つい先日も大貫小学校のコミュニティ・スクールということで、私もその委員として出席して、第 1 回の会議が終わったばかりです。その中で、石井委員のおっしゃるように、今の PTA の活動とは？と考えさせられました。</p> <p>私たちが PTA として活動していた頃は、美化委員など校内の環境を整える委員がありました。しかし、今は共働き家庭が増えたり、学童の人数が増えてきたりとか、私がいた頃とはだいぶ違うなど実感しております。</p> <p>その中で大貫小さんは、PTA 活動ではなく、奉仕作業の日というものを設けて、どなたでも、何分でも可能という感じで、確か曜日でやっていたと思います。それで、ご夫婦で「30 分だけです。ごめんなさい」と来られた方がいるという報告をこの間受けました。</p> <p>なかなか人数が広がらないので、どうしたらいいものかとい</p>

うことを校長先生がおっしゃっていて、それは皆さんでこれから広げていく方法を考えられますねということで話題になっていました。

子どもの数も親の数も多く、委員会もたくさんあるというような時代から考えると、今は規模がだいぶ縮小されているようです。もう一回活動を見直して、地域にいろんなものを返していき、PTAを核にして、その外に地域の人々がいるような形で、一緒に何ができるかを相互に考えていけるといいなと思いました。石井委員のおっしゃるとおり、今がチャンスなのかもしれません。

いろいろなことが変化してきて、そのために生まれた疑問を整理して、自分の立場では何ができるのかについて、世代別に考えるべきか、現在子育てしている方を支援する方法について自分ができることは何かなどを考えるようになりました。そのためにもお互いに色々と声に出して共有していければいいなと思っています。

石井委員

時代が変わっていくということで、自分が思うイメージのままではないと思っています。ただ、自分が現職の時に世話になった学校では、PTAの組織を作る上での意識が強かったのも、今もそういう方たちはたくさんいるとは思いますが、共稼ぎやコロナ禍などで時代が変わる中で、PTA組織の姿も変わって当然だと思います。それをいかに、子どもを核としたPTAの活動とするかを考えていけたらいいと思います。

今日は、たまたま資源回収があったので、それをきっかけにお尋ねしました。

杉田委員

そういう風な視点から、みんなで言葉に出して、一緒に聞いて、意見を出し合えるといいと思います。

高橋委員長	PTA の野尻委員 どうですか。
野尻委員	<p>現状として、PTA でどのような活動をしているか、ここ数年のコロナの状況で何が起きているかということですが、PTA 役員も任期で交代があるので、コロナ禍前の状況を経験してきた役員さんと、コロナ禍の最中で任期を終えていく役員さんなどで、上手く引継ぎを行えていないところもあります。その中でも、できなかった事業を見直して、それは本当に必要なのかを試行錯誤しながらやっております。</p> <p>例えば、私は青堀小学区なのですが、今までバザーをやっていましたが、現在はコロナ禍のためやっておりません。その中で、保護者の方の意見を聞くと、バザーに出品するものはたいてい家にあるものを出品するのですが、わざわざ買ってきて出品するご家庭もあるということでした。そういった意見を聞くと、本当に必要なのかと考えさせられる機会が生まれました。</p> <p>一方で、バザーを楽しみにしている地域の方がいます。私はPTA のバザーを経験していますが、始まる前から地域の方たちが列をつくって、楽しみに待っている姿を見ると、本当にこれでやめてしまっているのかと思うところもあります。</p>
高橋委員長	このことに関して、他に意見はありますか。
岡根教育長	<p>1 つ課題になるのが、少子化です。子どもたちの数が少なく、PTA 活動で奉仕活動をやっても、大変な量をやっています。そうした時に、地域の方々が協力してくれるようなシステムをつくれるといいなと思います。</p> <p>もう 1 つは、統廃合です。例えば、天羽小学校には、金谷、天神山、竹岡、湊地区の子どもたちが来るわけです。今までだったら、竹岡小学校や金谷小学校があったので、その保護者や地域の人たちの「おらが学校」という意識が強かったと思</p>

ます。それを今、天羽小学校になった時に、広い学区の中で、「おらが学校」という意識をどうつくるかというのが、地域活性化の上で、コミュニティ・スクールの役割になっているのだと思います。

今年の天羽小学校のコミュニティ・スクールのテーマが、各地域における、学校の支えとなるような組織づくりです。

PTA については、皆さんに活動していただいて、助かる組織ですし、ぜひ続けていただければと思いますが、やはり、PTA だけでなく、地域の方々と学校がお互いに学校や地区の課題に対して連携して学校を運営することが今後求められると思います。校長先生方には、今年のテーマとして、地域と共にある学校をどうつくるかという話をしています。

学校の規模も、青堀小学校のように子どもがたくさんいるところと、私の住んでいる佐貫小学校のように四十数人しかいないところがあり、土曜日に草刈り作業をやっているのを見ると、手伝わなければいけないかなと思います。

そういう点で、地域で子どもたちを見る目を育てていくということが地域づくりとして非常に重要で、ややもすると、子どもを叱ると「なぜうちの子どもを叱るのか」と言う親が出てきたりするような状況は避けたいので、地域の子どもたちをみんななで育む風土をつくっていく必要があると思います。石井委員のおっしゃったように、少子化の中でも地域は皆で見えていこうといった知恵をコミュニティ・スクールなどでお貸ししてほしいと思います。

高橋委員長

他に何かありますか。

森委員

資料裏面の「(3) 青少年健全育成の推進」というところで、青少年健全育成団体への支援と連携とあります。私は、スポーツ少年団というわけではありませんが、子どもから大人までを

伊藤課長補佐	<p>対象にしたスポーツ団体をやっていますが、支援と連携とは、実際どのようなことをしているのですか。</p> <p>青少年相談員や子ども会については、社会教育係が担当しております。まず、青少年相談員については、知事から委嘱されて、事務局は富津市がやっております。子ども会については、以前は事務局のようなことをやっていましたが、任意団体ですので、補助金はそのままで、自前でマネジメントをしている自立した組織です。</p> <p>スポーツ少年団に関しては、市に登録のあるスポーツ関係団体をまとめて富津市スポーツ少年団という組織となっております。それ以外のスポーツ活動をされている方々と、その他の団体との交流があるかどうかは存じ上げませんが、できればいろいろな組織や学校、市も相談いただければ、窓口になるようなイメージを書いています。</p>
高橋委員長	他に何かありますか。
杉田委員	<p>市でボランティアを集って、例えばブックスタートを始めていただいて、ここ数年の間で新しいことが始まりましたが、コロナでこの2年くらい、まったくやれなくなりました。</p> <p>それが、やっと今規制が緩くなってきて、以前の生活に戻りつつある雰囲気になってきましたが、年単位で活動を休止していたものですから、市で新たに発信をするときに、最初の頃のように熱のある募集を市民にしていっていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
高橋委員長	ブックスタートの関係ですか。
杉田委員	市で募集しているものについてです。例えば「まちの先生」

にしても、長くやっていると思いますが、先ほど話したコミュニティ・スクールの会議の時に、ぜひ活用してくださいとお願いしてきました。ですから、私はそういった発言をする機会があった時は、なるべく市の制度を使っていただこうと思って宣伝しています。

せっかく始めたもの、長く続けているものですので、声掛けを丁寧にしていただきたいと思います。

伊藤課長補佐

ありがとうございます。確かに、ブックスタートに関しては、千葉県内で最後の数自治体になった時に、いままで図書館関係の施策をやろうとした時に、図書館がないために予算化されなかったという経緯がありましたので、それではいけないということで、子育て関係の部署や健康づくり課などとタイアップして、募集させていただきました。

おっしゃるとおり、望外の反響をいただきまして、16名くらいボランティアの方々が集まってくださり、市民の何かしたいという熱意を感じました。それが元になって、今後協働本部が形としてただあるのではなく、地域の方が何かしたいけど何かあるかなという場になればよいと思います。

また、「まちの先生」は平成13年度から始まっているシステムで、人材バンクとしては県内でも早かったと思います。その時から登録されている方もいらっしゃいますが、最近はかなり減ってきている現状です。協働活動を進めていく中で、特殊な技術をお持ちの方などの参加を促し、せっかくあるシステムなので、学校の授業や子どもたちに限らず活用をPRしていきたいと思います。

高橋委員長

他に何かありますか。

石井委員	<p>社会教育施設の整備の中で、昨年度は図書館建設で勉強させていただいて、いよいよ次年度開館予定ということで進んでいると思います。現在このような状況下で、世界的な動きを見ると、本当に開館できるのかという思いと、必ず開館してもらいたいという思いで複雑です。開館に向けての見通しを教えてくださいたいです。</p>
樋口課長	<p>「その他」で進捗の説明があると思います。見通しという意味では、令和5年4月の開館に向けて進めています。ただ今、設計業務がスタートしまして、これは6月の上旬から8月中旬までの予定となっております。イオン側の工事が7月から9月まで行われます。市側の工事は、10月からで、物価の高騰などを加味しても12月までと見ております。年が明けて、本を配架したり、システムを組んでいくことになると思います。</p> <p>今後、我々だけでは何ともできない事情が起きるかもしれませんが、現段階ではスケジュール通りに進んでいます。</p>
高橋委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>他にないようですので、議題（2）令和4年度富津市生涯学習関係事業について、ご承認いただける方は挙手願います。</p>
各委員	<p>（全員が挙手）</p>
高橋委員長	<p>全員が賛成です。したがって、議題（2）令和4年度富津市生涯学習関係事業については承認されました。</p> <p>それでは、「(案)」を消してください。</p> <p>次に、「その他」に入ります。それでは、（1）富津市立図書館の進捗について、事務局より説明を求めます。</p>
伊藤課長補佐	<p>おおむね、先ほど課長がお話ししたとおりです。</p>

	<p>今、進めているのが、司書による選書です。これは何万冊も選ばなければならないので、業者さんと協力しながらやっております。</p> <p>また、今の図書システムを延長していくわけですが、規模が大きくなるので、機器の設定やシステムアップをしていかなければなりません。</p> <p>それから、先ほどありました通り、購入した本を配架するという業務を年明けにやらなければなりません。</p> <p>実は今月、皆さま方の計画を実現した図書館設置条例が、議会の最終日に可決され、来年4月の開館を打ち出すことができました。</p> <p>それから先が、実際は大事ですので、委員の皆さま方も引き続きご協力をお願いいたします。</p>
高橋委員長	<p>今説明が終わりましたが、何か質問等はございますか。</p> <p>私から1つお聞きします。本の選定についてですが、業者は具体的に決まっているのですか。それとも、これから決めるのですか。</p>
伊藤課長補佐	<p>現在、本は(株)図書館流通センターからICタグ込みで購入しているので、システムの関係上そこ以外は考えられないということです。随意契約になる予定です。</p>
高橋委員長	<p>他に何かございませんか。</p> <p>ないようなので、(2)「富津市子どもの読書活動推進計画」第2次計画について、説明してください。</p>
伊藤課長補佐	<p>図書館整備基本計画の前に、社会教育委員会議で立案した計画が、この「富津市子どもの読書活動推進計画」でした。</p> <p>これも、実は十何年も前から計画の素案がありまして、何度</p>

も立ち上がったのですが、図書館がないために没になり続けてきました。しかし、皆様のご協力を得て、県下の市で最後にこの計画ができあがりました。

初めての方もいらっしゃると思いますので、縮刷版で皆様のお手元にお配りしております。

「はじめに」にもあるとおり、皆様の熱意をもって作り上げたものです。ボランティアの話もそうですが、図書ボランティアや公民館の整備など、市民の皆様のお力をお借りして、図書の需要そのものも、過去最高にもう少しで達するかという矢先に、コロナ禍となってしまいました。しかし、皆様の熱意に呼応するように、令和2年の2月に、すべての施設をシステム化して、1つの図書館のように流通することができ、貸出率も上がってきました。

この計画は、システムが導入される直前に作られたものなので、これが評価されて、システムが導入されたと思います。

その延長で、図書館をつくるという事業が、昨年度の5月あたりに入ってきました。この計画は目標年度が2022年度のものが多く、学校の中での目標が2020年度というのがありますが、その他の項目は2022年度を目標としたものです。到達している目標もあるのですが、アクシデントで目標未満のものもあります。

新しい計画は今年度中に検討し、来年度新しい計画という年回りではあるのですが、来年度図書館ができるということで、それ以降はがらっと変わってしまうため、その変わった様子も含めて、来年度中に新たな第2次計画を策定するという方向で考えております。また皆様にこの計画を読んでいただき、思い出していただきながら、現状等を反映させながら、新しい計画を協議して作り上げていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

高橋委員長	<p>事務局からの説明は終わりました。委員の皆さんから、ご意見、質問等がございますか。</p> <p>来年度からアドバイスしてほしいということですね。今年は勉強期間ということですか。</p>
伊藤課長補佐	<p>そうですね。図書館が出来てからの体制が、今は想像でしかないなので、それを加味して新しい計画をつくっていく必要があると思います。新しい計画は、おおむね5年間となっております。</p>
高橋委員長	<p>何か質問等がございますか。</p> <p>ないようですので、(3)からの、各種会議、大会等について、説明をお願いします。</p>
伊藤課長補佐	<p>その他の(3)からは、連協の行事が書いてあります。冒頭に委員長からありましたように、(3)君津地方社会教育委員連絡協議会をしばらく書面開催で行っていましたが、昨年度は会則の大改訂を行い、新しい体制で7月23日(土)に総会が行われます。総会の前に理事会が行われることが規定されているので、同日開催で、理事の方は午後2時半から理事会に参加し、総会は午後3時半からとなります。</p> <p>会場は今のところ富津公民館を予約してありますが、正副会長会議の中で、これからはリモートも併用した方がいいのではないかという話がありました。しかし、富津の公民館はまだWi-Fi環境が整っていませんので、リモート開催はできないということで、ひょっとしたら君津の会場でそれができれば、お借りして小ぢんまりとした会場でもできるのではないかと考えています。ご参加をよろしくお願いいたします。</p> <p>次に、(4)君津地方社会教育推進大会についてです。富津市の推進大会がなくなって久しいですが、これが唯一一堂に会す</p>

る場となっております。これも、富津市が大会の当番だった令和元年度を最後に、行われておりませんでした。担当は2年交替で、今年度は木更津市さんが当番となります。木更津市さんは、今年改修等のため、大きなホールが使えないということで、富津市の会場の空きがあることを伝えてあります。時期はいつも7月の暑い時期でしたが、今年度は秋以降を考えています。

(5) 千葉県社会教育振興大会ですが、昨年度までは事務局1人、委員1人ということで、委員長と私が参加していました。今年度は、また皆さんに参加していただけるかもしれないということでした。

(6) 関東甲信越静社会教育研究大会についてですが、昨年度の関東大会は東京大会で、東京の委員のみの参加となりましたが、その代わりウェブ配信がありました。皆さんにはそれを見ていただいて、文字起こししたものを配付させていただきました。とても良い内容でしたので、もしリクエストがあれば、資料をお渡ししたいと思います。

(7) 全国社会教育研究大会広島大会についてですが、全国大会の開催地がだんだん遠くなっており、参加することはできないということで、4市の研修の中でも、正副会長・理事の方が参加できるのは、関東大会くらいまでとなっております。もしかすると、関東大会は、4市の研修の代わりに参加するということになるかもしれません。今後の会議の進捗によって決まると思います。

もし参加するとしたら、11月10日にメインの大会に参加し、11日の分科会は参加できないかもしれません。

高橋委員長

事務局からの説明は終わりました。委員の皆さんから、ご意見、質問等ございますか。

どなたか、その他にございませんか。

ないようですので、これで本日の会議はすべて終了いたします。

した。皆様のご協力に感謝申し上げ、本日の会議を閉じさせていただきます。

各位委員

ありがとうございました。

樋口課長

ありがとうございました。

以上をもちまして、令和4年度第1回富津市社会教育委員会議を閉会といたします。お疲れさまでした。